



ミステリーなんかじゃない

千葉市の学校の一部が学年休校になったり、入試の面接がなくなったりとまともや日本中が厳しい状況になってきました。そんな中でも私立高校や国立高専の推薦入試に合格できました。このままなんとか高校・大学の一般入試をみんなが無事に受けられ、蓄えた力を存分に発揮できるよう願っています。

さて千葉市内の小学5年生の国語の教科書には、もう大人になった人たちにも懐かしい「大造じいさんとガン」のような定番の作品も載っていますが、新しいところでは下村健一さんの「想像力のスイッチを入れよう」という説明文があります。ちょうど学校でもそれを習っているようですが、塾でも教えながら「ここに書いてあることって、ドラマの『ミステリーという勿れ』で菅田将暉が言っていることと同じだよ。」と話していたら、同じ教室で英検の練習をしていた5年生も、ものすごい勢いでうなずいていました。

メディアから発信される情報も事実の全てを伝えることはできないということ、ある図形の半分を見て「円の右半分だな」「四角形の左半分だな」と思ったところで全体を見せて、実はこんな形でしたという例で説明しています。切り取られた情報だけから全体を判断したことによる思い込みにハッとさせられます。そしてこのような思い込みを減らすため、与えられた情報を事実の全てだと受け止めるのではなく、頭の中で「想像力のスイッチ」を入れてみるのが大切だと言っています。ドラマの主人公もまた鋭い観察力とともに思い込みのない客観的な事実を次々と挙げていくだけでミステリーと思われた事件を解決していくのです。

実は苦手科目と思いこんだことにもこれが当てはまりませんか。例えば「どうも理科が苦手だ」という人は、理科の中で苦手とってしまったのはどの分野を習っていた時なのかを一度冷静に考えてみましょう。物理・化学・生物・地学のどこかでつまずいただけで理科全体を苦手とっていませんでしたか。他の科目でも一部を理解できないだけで全体が苦手と思ったならもったいないですよ！